

男女平等推進 from むさしの

まなこ

アンコンシャス・バイアスって?



「決めつけない」ことが大切です P.2
こんな経験ありませんか? P.4
調査結果から見るアンコンシャス・バイアス..... P.6

まなこ

JUL. 2023

生き方・いろいろ・ゆたかな人生〜男女平等推進fromむさしの『まなこ』第117号
企画・発行：武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター 2023年7月発行 〒180-0022 東京都武蔵野市境2-3-7 TEL: 0422-37-3410

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

男女平等推進団体 活動補助金事業報告

「花との対話、人との対話
—かたらいを通して、
お互いを尊重する関係づくり」
+ かたらい Café 体験

日時：令和5年2月23日(木・祝)
14:00～16:00

会場：武蔵野スイングホール
10階 スカイルーム3

講師：永井裕遙さん(華道家)

主催：かたらいの会



◎性について考えることは一般的にはとても難しいテーマだと思っただけなのに、『まなこ』では、その背景や伝えなければならぬ情報だけでなく、市民にできることがわかりやすくまとまっていた。

116号「性について知ること、学ぶこと」を読んだ
令和4年度 第4回「まなこ」サポーター会議が3月8日(水)に市役所にて開催され、活発な意見交換がされました。

◎データに基づいて、私たちが今後何を学んでいくべきかという点が示されていてよかったです。
◎全体的にわかりやすい構成になっていてと思うが、性というテーマがとてつもないと感じた。もう少し特定のトピックに絞った方が読みやすいかもしれない。
◎性というジャンルは、社会が覆い隠している部分が多いためと感じる。それでも、子どもにしっかり伝えなければならぬこともたくさんあるし、それが親である私自身の責任だと思った。



「まなこ」サポーターの 200 字コラム

「アンコンシャス・バイアス」について

柔軟な見方や発想を、意識したい

大坂由香理

バイアスは、偏見・先入観・偏りの意味の言葉で、心理学的にはその種類も多く、一人一人の成長につれて、経験や環境の中で獲得され、染み付くものだ。問題になるのは、無意識の偏見によって自分が苦しくなったり、他者を傷つけたりする場合で、特に「暗黙の了解」などのハイコンテクスト文化に多いようだ。一方で極端な思い込みをしていないか、自身を疑う必要があり、指摘された時は柔軟に素直に自己を省みることを心掛けた。

「リケジョ」を目指す孫を応援

鈴木章

個人的な話で恐縮ですが、わたしの孫は来年度大学受験を控えています。志望を聞けば理系の学部を指しているとのこと。幼いころから可愛いらしい女の子だったの、当然文科系の学部へと進むのだろうと思っていました。最初は驚きました。でもこれが「アンコンシャス・バイアス」とすぐに反省。やはりわたしにも「アンコンシャス・バイアス」がありました。身近なところにあるアンコンシャス・バイアス。気をつけましょう。

男性／女性であって然るべき?

中村邦子

所属学部の女子の割合が1割だった大学時代、とある学生組織の委員長になった。自分でさえも男子学生がなつて然るべきというアンコンシャス・バイアスがあったくらいだから、よく「初の女性委員長」と紹介された。そう言われるたびに、職務を全うするのには性別は関係ないのに、と違和感を覚えた。その経験があつてか、「女医」とか「女性の市長」という言い方をしないし、男性の保育士や看護師にもエールを送りたくない。

* STAFF *

取材・編集 秋山茉莉奈 沼田仁子 羽柴史美 久富明美
若林優香 武蔵野市立男女平等推進センター担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙デザイン ふじわりわ
レイアウト 上田ジュンコ
印刷 シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふるやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー
をご覧ください。 [武蔵野市 まなこ](#) 🔍 検索

Editors' Notes * 編集後記

自分自身も常に意識していかなければと思う。同時に、現行の社会制度やメディアの報道がアンコンシャス・バイアスを生み出している実状も忘れてはならない。個々人の問題ではないはずだ。(秋山茉莉奈)

誰もが思い込み・先入観で物事を判断しがちだ。自分の中にあるアンコンシャス・バイアスを意識して、自らの視野を広げるきっかけになればと思います。(沼田仁子)

親や先生から教えられた事も時代の流れと共に変わっていく。世の中の変化を受け止め、されど過度に流されることなく、柔軟に生きていく大切さを感じた。(羽柴史美)

自覚がないから厄介。ふつと、当たり前、常識に、立ち止まって意識することから始めたい。思い込みが解けたら、もっと楽しく幸せになりそう。(久富明美)

今回の特集を通して、自分の中にもさまざまなアンコンシャス・バイアスがあることに気がついた。気づいてからの行動が大切。自分の思い込みで他人を傷つけてしまわないように気を付けた。(若林優香)

アンコンシヤス・バイアスって？

想像と異なる事実直面し、無意識に「こうに違いない」と思い込んでいたことに気づいた事はありませんか。
「無意識の思い込み」とも言われる「アンコンシヤス・バイアス」について考えてみました。

「決めつけない」「ことが大切です」

誰もが持っているアンコンシヤス・バイアスが与える影響やそれに気づく大切さについて、企業の執行役員、国立女性教育会館の理事長として女性活躍推進に注力された内海さんにお話を伺いました。

アンコンシヤス・バイアスとは

アンコンシヤス・バイアスとは、誰もが潜在的に持っている無意識の思い込みのことで、これまでの経験や周りからの影響により自然に形成されます。最近アンコンシヤス・バイアスという言葉を目にすることが増えました。それは、皆さんの心の中に潜んでいる無意識の思い込みが女性活躍推進の足を引っ張っているのでは、と気づき始めたからだと思えます。

私自身は2015年頃からアンコンシヤス・バイアスという言葉を知るようになりましたが、無意識の思い込みが女性活躍を阻む要因の一つではないか、ということには以前から気が付いていました。私だけでなく、ダイバーシティや女性活躍を推進するような方

達は、思い込みが女性活躍を阻んでいることは昔から思っていました。それを表現する適切な言葉がなかったのです。アンコンシヤス・バイアスという言葉を知り、「これだ！」とみんなが飛びついたわけです。そして多くの人たちが持つ共通の概念を共有することができたのです。

私は2001年にNECソフトの人事担当執行役員をしていましたが、女性活躍推進において女性の育成には「3つのき」を大事にしてくださいと話していました。「3つのき」の最初の1つが「決めつけない」、あとの2つは「期待して」「鍛える」です。この「決めつけない」というのが、まさにアンコンシヤス・バイアスのことだったのかと思います。「女性だから管理職になりたくないだろう」「子どもを育てながら働

いているから海外出張は無理だろう」など決めつけないでください、と皆さんに訴えていたのです。

今はアンコンシヤス・バイアスという言葉を知ったので、決めつける発言(アンコンシヤス・バイアス)は女性活躍の芽を摘んでしまいますよ、と言えるわけです。

そしてこの無意識の思い込みを乗り越えることが、女性活躍を推進するための大きな力になると考えております。

アンコンシヤス・バイアスがある背景

歴史的背景で見れば、日本は戦後の高度経済成長期に「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という性別役割分業が定着したことが、アンコンシヤス・バイアスを生んだ大きな要因

PTA会長など決定権を持つ立場にある人は男性が多く占めることから、子どもたちの意識にも影響していると思われる。

気づく大切さ

アンコンシヤス・バイアスは誰にでもあるものだと、皆さんに共通認識を持ってもらいたいです。私自身、アンコンシヤス・バイアスを持っていないと思っていました。自分自身の思考回路にバイアスがあったことに気づかされ自覚した出来事があります。ある女性が工学部の人気の高いゼミの教授の話をしていました。てっきり男性の教授だと思いましたが、実際は女性だったのです。誰もが経験や環境から得られた知識から、バイアスができてしまうものだと実感しました。

バイアスに気づくために組織での取り組みで出来ることは、データを取り続けることです。組織のトップが直感で結論を出さず、データに基づいた上での判断をすることが必要です。

個人としてできることは、アンコンシヤス・バイアスの存在に気づき、どこで現れるかを知ることです。そうすれば重要な判断を下すときにその影響を最小限に抑えることができます。

これだけ話題になっているので、アンコンシヤス・バイアスがどのようなものか勉強し、知識を習得して、その上



うみ かずこ
内海房子さん

津田塾大学学部数学科卒業。日本電気株式会社(現NEC)に入社し、研究開発事務本部長、NECソフト株式会社、執行役員、NECライニング株式会社 代表取締役/執行役員社長を経て、独立行政法人 国立女性教育会館(NWEC)の理事長を務めた。現在は府中市男女共同参画推進協議会会長などを務める。

の一つだと思えます。

身近な例をあげると家庭科教育があります。戦後、男女共修の家庭科教育がスタートしたのですが、およそ10年後には「技術科は男子・家庭科は女子」と男女別々の教育になりました

で自分に当てはめて考えてみる事が大切だと思います。

気づいた後の対処法

自分にもバイアスがあると気づいたら、自分と違う意見の人を理解する努力をし、正しい判断をする習慣が必要です。気づかずには悪いことや変なことを言っ、相手を傷つけてしまう人もいます。その人は変なこととはもちろん思っていないし、相手を傷つけていることも気づいていないのです。そういう場合は、それを受け流すのではなく、自分の考えを相手に伝えるようにしたいですね。

若い頃に残業していると「残業するなんて、ご主人は何も言わないの?」と言われたことがありました。私は笑ってごまかしてしまいましたが、「夫も私の仕事を応援してくれている」ときちんと事実を伝えていけば、その人の理解が進んだかもしれないのにと思っています。無意識の思い込みを向けられた時に、お互いがどういう風に考えているかコミュニケーションを取り、自分のことを伝えることが対処法となるのではないのでしょうか。

そして普段から決めつける発言をしないように心がけることが大切なのです。

「無意識の思い込み(アンコンシヤス・バイアス)」や固定的な性別役割分担意識の事例

家事・育児・介護は女性のほうが向いている



管理職は男性のほうが向いている



夫は外で働き 妻は家庭を守るべきである



「女性はこうあるべき」「男性はこうあるべき」あるいは「女性ならこうすべきではない」「男性ならこうすべきではない」といった性別による固定的な思い込みはないでしょうか?

アンコンシヤス・バイアスが与える影響

経済協力開発機構(OECD)による調査では、日本はSTEM(科学・技術・工学・数学)分野で女性の活躍が遅れているといわれています。「女子は理系に向いていない」そんなアンコンシヤス・バイアスがあったのではないのでしょうか。かつてより理系に進む女子は随分と増えてきているのですが、依然として少ないのが実態です。理系の中でも学部を専攻するときに、男子は工学部、女子は薬学部と分かれる傾向にあります。*

工学部は16%くらいしか女子がいないですが、最近では工学部の開設を始めた女子大や工学部に女子枠を設ける大学も増えてきて、少しずつ変わってきたようです。

以前、子どもたちになぜ女性の校長先生が少ないと思うかを聞いたところ、「男性の方が強いから」「男の先生の方がしつかりしている」「男性の方がリーダーらしくていい」などの意見が出ていました。地域における女性の参画状況をみると、自治会長、地方議会議員、

(出典) 文部科学省 次世代のライフランニング教育推進事業
学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム「無意識の思い込み」に気づくために、プログラム紹介リーフレット

*男女共同参画白書 令和3年度版

仕事

- 紹介される際に「2児の母でもある」など「母親業もやっています」というような補足をされることがある。育児とフルタイム就業を両立していて立派だと褒めてくれているのかもしれないが、その根底には育児は母親のワンオペが普通というバイアスが、かかっているのではないか。(60代女性)
- 本社からの視察にあたり、「女性が対応した方が厳しい指導を受けにくいから」と担当するよう上司から指示された。(20代女性)
- 上司から「そろそろ結婚しないといけないでしょう」と、職場の得意先の息子とお見合い話を勝手に進められそうになった。女性は結婚し退職することが当たり前のように思っている男性達がまだいることに違和感を覚えた。(30代女性)
- フリーランスで仕事をしていると主婦の道楽のように言われることがある。(40代女性)
- 軽作業のバイトをしていたときに、女性が重い物を運ぼうとしていたので「僕が代わりに運ぶよ」と無意識に申し出てしまった。同じ業務に就いているのに、女性に持たせてはいけないという先入観で動いてしまった。(20代男性)
- 給湯室の片づけをしていた男性に「やらせてしまってますみません」と言ってしまう自分に驚いた。(30代女性)

まなこ編集委員とその周りの方々にアンコンシャス・バイアスについて聞いてみました

こんな経験ありませんか？

- 子どもを保育園に預けていた頃「まだ小さいのにかわいそう」「これだから最近のお母さんは…」と言われることが多々あった。また、少しでもヒールのある靴で子どもを抱っこしていると「そんな格好で危ないわね」と、母親のあるべき姿を押し付けられている感じがした。知り合いでもない年上の女性に言われることが多かったと思う。(40代女性)
- 夫が娘に対し、「ママが怒るから〇〇はやめようね」と言って聞かせることがある。そもそもおかしな論理だが、自らが育児を担う感覚がないからそのような言葉が出るのかと思う。(40代女性)
- 子どもの保育園の提出物に保護者欄があり、自分の母親が父の名を書いていたので、夫の名前を書くものだと思っていたら、園側から「ここはあなたの名前でも良いですよ」と言われびっくりした。それからは自分の名前を書いている。(30代女性)
- 娘の具合が悪くなり迎えに行ったら、保健室の先生が男性だったことに驚いた。(40代女性)

育児

家族

- 夫の実家帰省には必ず妻が同行するのに、妻の実家帰省に夫は気が向いたときだけしか来ない。慣れない姑との家族会に「妻は我慢するものだ」と夫に言われるが、夫は我慢する状況が少ないのが不公平。妻だけが合わせないといけないのか。(30代女性)
- 地方だからか、進学を決める際「家の近くにしない」と言われた。親のケア要員として見られているようで嫌だった。(40代女性)
- 女の子だからおしとやかにしなさい、料理ができるようになりなさい、お姉ちゃんだから弟の世話をしなさいと言われて育った。(40代女性)
- 電子機器が故障したとき、夫が修理できないとイライラしてしまふ。男性は機械に強いと思込んでいる自分がい。(30代女性)
- 「ピンクが好き」と言った息子に、緑や青がいいんじゃない？と薦めてしまった。(30代女性)
- 女の子だからバレエがいいだろうと娘に習わせたいが、本人はあまり好きではなかったみたい。女の子にはこれというイメージが自分にあったのかもしれない。(40代女性)

● 若い頃「ひとりっ子だから〇〇なのね」と決めつけられる場面が多かった。「きょうだいがいなくて可哀想」「お嬢さん取るの？」「甘やかされて育ったのね」など…。保育の仕事に就き、現場の先生にも、「ひとりっ子だから」「長男、長女だから」と子ども個人の性格や今現在の成長の様子を決める傾向が見えられていた。(60代女性)

- 子どもの頃、自分が勉強好きなのに対して、弟はあまり好きではなかった。周りから「逆だったらよかったのね」と言われ複雑な思いだった。(40代女性)
- 「銀行員だからね」と保守的でチャレンジしない、という働き方のイメージを決めつけられるような発言をされたことがある。(40代男性)
- レストランで、父親と子どもが二人で食事をしていて姿を見て、息子が「あの子の母親はいないのかな」と心配していた。母親は仕事やひとりの時間をゆっくり過ごしているかもしれない。ひとつの思い込みではなく想像力と柔軟性ある社会になって欲しいと思った。(40代女性)
- 高校生の息子の同級生には、髪を伸ばしたり家でスクリーンを履いている男子や、自分は男でも女でもない友達の間で公言している子もいる。その子達にまったく違和感を持っていない息子を見ると、一番変わるべきは大人の方だなあと感じる。(40代女性)

その他

編集委員が思うアンコンシャス・バイアス

血液型や国籍などで固定的なイメージを持つステレオタイプもアンコンシャス・バイアスのひとつであると知った。

メディアで問題発言が騒がれるのは、うわべだけ取り繕って内心は変わっていないからだと思う。全てのバイアスを取り除くのは難しいが意識していきたい。

教育が大事。バイアスや思い込みは誰にもあるから、早い時期にきちんとした知識を身につけることができたなら、その後の言動が変わると思う。

アンコンシャス・バイアスは誰もが持っている、知らずに人を傷つけるのかと思うと、なるべく黙っていたほうがいいのかと思うってしまう。

自分で常に意識していれば、話しながら「あ、これはアンコンシャス・バイアスかな」と気づける。相手の反応で判断するのもいいのでは。

生まれ育った環境や親から受け継ぎ培ってきた価値観からくるものだとしたら、必ずしも悪いことではないと思うが、それを他人に押し付けてはいけない。

ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

TOPICS

ホームページなどで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、ホームページなどで情報発信しています。アクセスしてみてください。



ホームページ



「まなこ」バックナンバー

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談

【相談時間】 1回 50分/予約制

第1土曜日	①13:00～ ②14:00～ ③15:00～
第2金曜日	①18:00～ ②19:00～
第3月曜日	①14:00～ ②15:00～
第4火曜日	① 9:00～ ②10:00～ ③11:00～

◆女性法律相談

離婚・扶養（養育）・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

第1土曜日	①9:30～ ②10:10～ ③10:50～ ④11:30～
-------	--------------------------------

【相談方法】 面接による相談

【相談時間】 1回 30分/予約制

【申込み方法】 「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。

【予約電話番号】 0422-37-3410（木曜・年末年始を除く午前9時～午後10時）

◆むさしのにじいろ相談（性的指向・性自認に関する相談）

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30～20:30	▶電話相談：0422-38-5187 ※予約不要 ▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。 0422-37-3410
-------	-------------	--



BOOKS 男女平等推進センターの蔵書から貸し出ししています!

『差別はたいてい悪意のない人がする 一見えない排除に気づくための10章』

キム・ジヘ著 ユン・イギョン 尹怡景 訳
(大月書店)

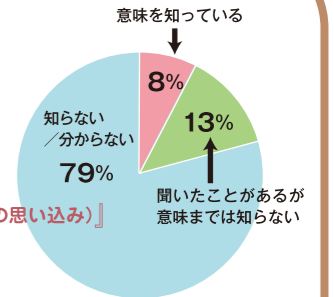
タイトルにまずハッとさせられる。悪意のない人であったとしても差別をし得るという投げかけは、とても分かりやすい問題提起である。「差別」という言葉自体は悪いものであるという認識が浸透しているにも関わらず、差別を生み出している構造的な問題は見えづらいためだ。

本書は、現場活動家及び研究者である著者が、韓国や米国の事例を多く紹介して差別構造を解き明かす。全体を通して学術的な論拠が多いため非常に読み応えがある。同時に、映画やドラマを用いた説明も随所にあるため読みやすくもある一冊。
[文 秋山茉莉奈]



調査結果から見るアンコンシャス・バイアス

私たちの意識に潜むアンコンシャス・バイアスはどのくらいあるのでしょうか。内閣府の調査研究の一部をご紹介します。



●あなたは、「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」という言葉を知っていますか。

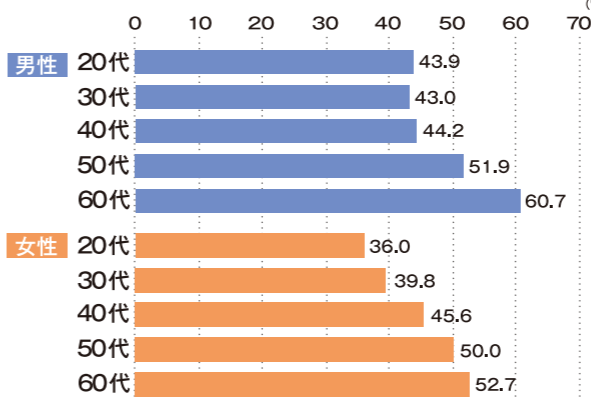
●性別役割に対する考え

男性	
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	48.7%
2 女性には女性らしい感性があるものだ	45.7%
3 女性は感情的になりやすい	35.3%
4 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	34.0%
5 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	33.8%

女性	
1 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	44.9%
2 女性には女性らしい感性があるものだ	43.1%
3 女性は感情的になりやすい	37.0%
4 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	33.2%
5 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がよい	27.2%

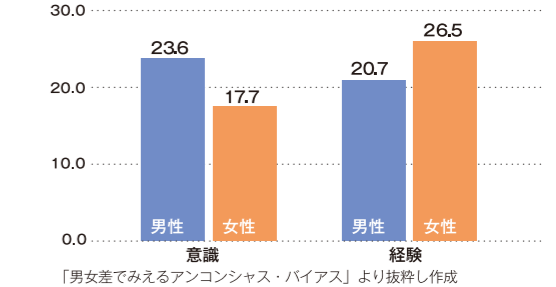
「性別役割意識上位10項目」より上位5項目を抜粋し作成。「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計

●性別役割意識〈性・年代別〉 「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」



性別役割意識〈性・年代別〉「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計より抜粋し作成

●男女差でみえるアンコンシャス・バイアス 性別役割について意識及び経験



性別役割の「意識」は男性が強い一方で、直接言われた・言動や態度から感じた「経験」は女性のほうが多い。
男性は女性と比べて、性別に基づく役割を直接言われた、あるいは言動や態度で間接的に接した「経験」は少なく、伝統的な役割観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性がうかがえる。

●あなたの中のアンコンシャス・バイアスをチェックしてみましょう 「yes」と思う設問にチェックしてください。

- 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
- 同程度の能力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ
- 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
- 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ
- 女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない
- 女性は感情的になりやすい
- 男性は人前で泣くべきではない
- 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない
- 女性には女性らしい感性があるものだ
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
- 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
- 女性は正規雇用にこだわらなくともよい
- 組織のリーダーは男性の方が向いている
- 女性社員の昇格や管理職への登用のための特別な教育・訓練は必要ない
- 女性の上司には抵抗がある
- 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい
- PTAには女性が参加するべきだ
- 女性には高い学歴やキャリアは必要ない
- 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
- 男性は結婚して家庭を持って一人前だ
- 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ
- 家事・育児は女性がするべきだ
- 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ

内閣府男女共同参画局「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）チェックシート」より抜粋し作成

武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間：午前9時～午後10時（木曜・年末年始 休館）
電話：0422-37-3410 FAX：0422-38-6239 Eメール：danjo@city.musashino.lg.jp



出典：内閣府男女共同参画局 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究
調査対象：全国男女20～60代10,906人（男性5,452人 女性5,384人 その他70人）
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r04.html

【構成 久富明美】